

日高特別支援学校

日高特別支援学校(大字高富59-1)は、体の不自由な子どもたちが通う特別支援学校です。小学部、中学部、高等部および訪問教育部があり、各教科などの学習や子どもたちの状態に応じた自立活動の学習などを行っています。

日 高特別支援学校に通う子どもたちの約8割は車いす利用者。車いすを自走させられない子や言葉を発することが難しい子も多くいます。このため、子どもたちがいざというときに行動をとったり、必要な支援を受けたりできるように、防災訓練の他に学習時間を設けて学校全体で防災教育「かわせみ防災タイム」に取り組んでいます。また、小学4年生から高校3年生までの児童・生徒による防災委員会を発足させ、児童生徒会活動として自分たちでできる防災活動にも取り組んでいます。

このような取り組みが評価され、兵庫県等が主催となり、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもや学生を顕彰する「ぼうさい甲子園」小学生の部で、平成27年度は優秀賞、28年度は奨励賞、そして今年度は優秀賞を受賞しました。

3 年前に始めた「あたりまえ防災体操」は、お笑いコンビCOWCOWの「あたりまえ体操」の歌詞と振りを「じしんがきたらあたまをまもってダンゴムシ！」などと替えたものです。ご本人にも許可を取り、公式替え歌として使用しています。繰り返し行ってきたことで、高学年の生徒が低学年の児童に教える様子や実際に地震が起こった際にすばやく「ダンゴムシのポーズ」をとる姿も見られるようになってきました。今年度、小学部高学年の学習では、ポーズをマスターした児童にそれぞれの認定シールを配布しました。このシールが大人気！みんな上手にポーズができるようになりました。



地 震発生時の危険な場所を伝える「ぐらぐら妖怪を探せ!」。江戸時代の大なまず伝説を基に、災害時に危険をもたらす恐れのあるものにとりつく「ぐらぐら妖怪」と名付



けたキャラクターを作成。このイラストは児童が描いてくれました。エアコンや電灯など、落ちてきたり、倒れてきたりする可能性のある危険な場所を見つけてこのシールを貼り、視覚的に危ないとわかるようにしました。子どもたちならではの視点で見つかるものもありました。「ぐらぐら妖怪」のシールを目印に低学年の児童や言葉を発することのできない児童でも危険な場所を確認することができました。

この他にも、校内の消火器の設置場所や消火ホースが届く範囲などを調べてマップにまとめたり、安全なまちづくりについて考えたりしています。

日高特別支援学校は、福祉避難所(二次避難所)にもなっています。災害が発生した際には、たくさんの人たちとの連携も重要になってきます。いざというときに備えて、これからも防災学習を進めていきたいと思っています。

毎年7月末の夏休みに、防災体験プログラムを開催しています。子どもも大人も、どんな人でも楽しみながら防災について学べるコーナーをたくさん用意していますので、ぜひ遊びに来てください！



齋藤 朝子 教諭

手島 大介 教諭